

福島第一原子力発電所の事故収束に向けた取り組み

福島第一原子力発電所における事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますことに、改めて心よりお詫び申し上げます。

4月に発表した事故収束に向けた道筋について進捗状況を9月20日に発表しましたのでお知らせします。

基本的考え方

原子炉と使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組みます。

目標

ステップ1

放射線量が着実に減少傾向となっている ⇒7月に目標を達成し終了しました



ステップ2

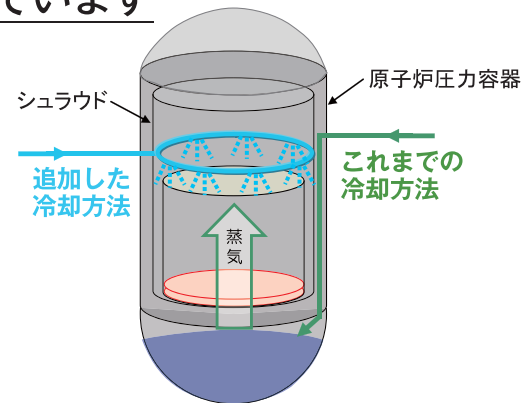
放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている（7月から3～6ヶ月）⇒

年内をめどに達成すべく全力で取り組みます

課題の取り組み状況

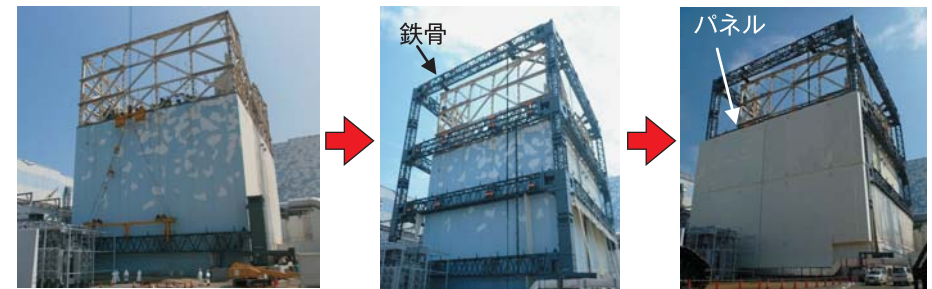
原子炉は安定的な冷却を継続しています

- ◆ 圧力容器底部の温度は
1号機：78℃
2号機：104℃
3号機：82℃（9/25時点）
となり、1号機は100℃以下で安定しています。
- ◆ 2、3号機も100℃以下で安定することをめざし、より効果的に冷却できるシステムからの注水を追加しました。



1号機で原子炉建屋のカバーを設置しています

- ◆ カバーにより放射性物質の拡散を防ぎます。
- ◆ 鉄骨の設置が終わりカバーとなるパネルを取り付けています。
- ◆ 3号機は、原子炉建屋上部のがれきを除去しています。



滞留水処理を着実にすすめています

- ◆ タービン建屋などにたまっている滞留水は、これまでに95,420トン（9/18時点）を処理し豪雨や処理施設の長期停止時にも海へ流出しない水位になりました。
- ◆ さらに処理施設を増強しています。



セシウム吸着処理施設（サリー）

格納容器ガス管理システムを設置します（新たな追加対策）

- ◆ 放射性物質の放出を低減するため1～3号機で格納容器内に充填している窒素ガスを、フィルターを通してのみ外気に出るようにする装置を設置します。

